

「駅業務委託のさらなる推進に関する申し入れ」

申14号

交渉実施！①



高齢者雇用の場を確認！ 営業職場の将来像を創り出そう！

確認したこと

- 駅業務の委託は高齢者雇用の場の確保が前提である。主旨、目的、方向性は変わらない。
- フロアパー社員を採用することをもって、エルダー社員が希望する駅で働けないというスキームではない。
- 資格を要する運転取扱業務はJR本体とし、サービスマネージャーや新販売拠点は基本的に直営で残したい。
- 安全レベルを維持し、管理・責任体制を明確にすることの必要性は問題意識がある。
- 観光、乗り換え、特急停車駅等拠点はJR本体が望ましい。
- 労働条件が厳しくエルダー社員が退職している。よって労働組合法に基づき改善のために東労組がグループ会社に申し入れをさせてもらう。

組合 提案を受けてから時間が無い中で議論してきた。我々はグリーンスタッフの正社員化を求め13回交渉を行ってきたが依然として穴が空かず、今年3月の雇い止めもあり苦渋の選択であった。受託会社の中に一定程度グリーンスタッフの採用を確保してきた。確かに本社-本部間なので一律な基準を決めるのは難しい。要員需給が逼迫だから委託だという議論に陥らず、高齢者雇用の確保を前提にして真摯に議論してもらいたい。駅は我が社のサービスの最前線で、重要な拠点だ。しかしお客さまサービスは普遍だ。それぞれの特情に合わせた販売体制は必要だし、JRにおける技術継承もしっかりとしなければならない。今後どのように駅をJR東日本の顔として維持し、人材育成をするのかについては、今後組合案をつくる。お互い腹を合わせてこの会社の将来をつくっていききたい。また別途議論をお願いし、この交渉を終わりたい。

営業職場の将来像についての各職場から創ろう！